

進化し続ける高度情報化社会に欠かせない システム開発のプロとして躍進。 人材育成に力を注ぎ、未来への布石を打つ

今回お訪ねしたのは、山口市の株式会社西日本情報システムです。コンピューターがまだ珍しかった昭和40年代から、情報産業分野で業務を拡大してきました。官公庁から一般企業、人命を預かる病院などの専門領域まで、多方面で技術力を発揮しています。顧客の立場で考え、また働きやすい職場環境の整備にも心を配る井上文弘会長に、お話をうかがいました。



山口市の佐山産業団地内にあるオフィス

コンピューター時代の先駆けに コンサルティング事業を開始

今から50年近く前、私は黎明期の情報分野を専攻し、同志社大学で研究を行っていました。しかし結婚が決まり、夫婦二人の地元である山口に戻ることを決意。「何か仕事をせねば」と探したところ、防府市の山口工業短期大学(現在は山口短期大学)で講師の職を得ることができました。教員としての仕事が面白くなってきたところに、起こったのが大学紛争。授業どころではなく、大学での仕事は行き詰まりました。

昭和44年、45年ごろというのは、ちょうどコンピューターが出始めたころ。今のような小型のパソコンがあったわけではなく、一つの部屋を占めるような大型のコンピューターに、みんなが目を見張っていた時代です。専門知識のある人は少数で、行政や企業、医師会などから個人的にコンサルティング相談を受けていました。教員を辞してから業務を本格化するため、昭和47年に個人登記で西日本ソフトウェアを立ち上げることに。幸い、コンピューターシステムを開発していた日立製作所から

業務委託を受けることができ、経営は安定。昭和50年代には5、6人の社員を雇用するほどになりました。

システム開発でニーズに対応 効率的なパッケージソフトも開発

情報の世界は技術革新が続いています。かつては手書きの書類をデータ入力する「パンチ」という仕事が業務の中で大きなウェイトを占めていました。年を追うごとに端末が進化し、電気使用料なども端末から直接コンピューターへデータが送られるようになり、「パンチ」の



最新技術を習得し業務に励む従業員



仕事はかなり減少しています。

現在の主な業務は、情報化戦略や業務効率アップを支えるシステム開発です。官公庁に向けては財務や税務、土木事業、用地補償などの管理システムを開発。製造業に対しては生産や品質、販売物流などの管理システム、流通業向けに顧客や販売の管理システムなどを構築しています。医療分野には臨床検査や病院健診、放射線画像システム、教育機関にはデジタル採点システムなどを提供。業界ごと、企業ごとに商習慣が違うため、システムに求められることもさまざまです。営業担当者がヒアリングをしたうえで、詳細はシステムエンジニアが打ち合わせを行い、課題を聞き取り、的確にお困りの点を解消するシステムを開発するように努めています。

こうした多様な分野での業務経験を生かし、汎用性の高いシステムを開発し、自社パッケージソフトとして販売しています。漁業が盛んな山口らしい分野としては、漁協向けパッケージソフト「七福神」があります。販売事業（せり）、購買事業（燃料などの組合員供給）、財務会計、組合員情報管理など、漁協に関わるあらゆる業務を包括。山口県漁業協同組合にも採用していただき、県下の支店すべてで導入していただきました。二重入力の労力やミスが削減でき、事務処理の効率化と業務負担の軽減につながったと好評です。現在では、「七福神」は全国で250もの漁協へ導入されています。

ユニークなところでは、看護師の勤務表の作成を支援するパッケージソフト「N's-shift」があります。「2日出勤して1日休む」といった不規則なローテーションに対応するのはもちろん、相性のよい人同士を組み合わせるといった人間関係の事情もくみ取り、スムーズに病棟が運営できるようサポートしています。その他には、生コンクリート製造業や砕石業に特化した出荷・販売管理ソフトなども販売中です。

人材不足に対応する教育システム ベトナムに子会社も設立

どの業界でもいえることですが、人手不足はシステムエンジニア業界でも深刻です。求人を出しても、なかなか応募はありません。新卒採用でも、従来は理数系を対象にしてきましたが、今後は文系にも門戸を広げたいと考えています。論理的な思考ができる人であれば、システムエンジニアとして活躍できるからです。新卒者には、基本的なビジネスマナーからプログラミングまで、知識とノウハウを学ぶ新人研修を半年間実施。さらに1年間は教育期間と考え、それぞれのレベルに合わせた指導を実施することで、プログラミング技術を伸ばし実践力を磨ける体制です。

人手不足の解消につなげようと、平成23年にはベトナムのダナンに子会社V.S.Tソフトウェアを設立しました。ベトナムを選んだ理由は、親日家が多くて勤勉な国民性、さらに情報関連の教育機関があり人材の確保が可能だったことが挙げられます。従業員には現地でシステム設計をしてもらうほか、数名は来日してもらい、



ベトナムの子会社での採用試験の様子。勤勉な若者が多数集まりました

経営理念

1. システム開発を通じて、社会の発展をサポートする
2. 感性と技術力のある頭脳集団としての使命を果たす
3. 向上心を持つ社員を応援する

プログラミング技術と日本語力を高めてもらっています。パソコンの作業には日本語はあまり必要ないのですが、打ち合わせをして要望を聞き取るには、日本語での会話は重要です。毎週2時間、総務の社員と会話トレーニングを行うなどして、1年程度でコミュニケーションがとれるほどに上達。若さと熱心さで、私たちの期待以上に頑張ってくれるベトナム人従業員は頼もしい限りです。

最新技術の提供とコスト削減などITの「困った」に対応

安定した収益源になっているのが、IT技術者の人材派遣です。お取引先さまに信頼をいただき、半年、1年といった短期間ではなく、5年、10年といった長期間の人材派遣を行っています。その上に上積みする収益源として、自社開発パッケージソフトには一層力を入れていきたいと考えます。例えば、ますますニーズが高まる介護分野に特化したソフトは、今後も需要が大きいはず。ベテランの日本人スタッフがソフトの設計図を描き、実際のソフト構築は人件費の安いベトナムの子会社で行うといったグローバルな分業体制も視野に入れていきます。

どこの組織でもある程度IT化が進んだ今、私たちに求められることは変化してきています。情報の外部漏洩(ろうえい)や、ハッキングを防ぐためのセキュリティー対策は、必要不可欠になってきました。また東日本大震災後は、データのバックアップ体制を備えることも注目されています。「新しいソフトを導入したいが、これまで使ってきたオフコンも継続して使いたい」「社内のパソコンのOSがバラバラで、サポート期間が終了したものもある。円滑に業務が進むように、システム開発と合わせて必要な機器の手配もお願いしたい」といった個別の事情に

も、お客さまの立場に立って対応を進めています。「コストを抑えたい」という希望には、弊社のサーバーを活用したり、保守料を見直したりといった工夫で対応。お客さまの問題をなんとか解決したいという思いで、長年蓄積してきたノウハウを駆使して業務に当たっています。

IT業界は優秀な人材が全て 経営を担える人材も育成する

IT業界は、優秀な人材が成否を分ける鍵。AI(人工知能)がどんなに発達しても、打ち合わせをしてお客さまのニーズをくみ取ることはできないと思います。人材を確保し、さらなる成長をうながし、長い期間活躍してもらうことが、弊社の発展の基盤になると私は考えます。

資格取得を推奨し、情報処理技術者やプロジェクトマネージャなどについてはテキスト代や受験費用を会社が負担。資格手当の支給も行い、現在では社員の8割が何らかの資格を取得しています。定時退社の推進、仕事と子育ての両立支援、ベテランスタッフの雇用延長など、働きやすい環境の整備も推進中です。

創業者の私が70代ということで、後継者について尋ねられることが増えました。企業は創業者(出資者)、社員、お客さまの三者がいて初めて成り立ちます。ここまで弊社が発展してこれたのは、社員の頑張りがあってこそ。M&Aなどは考えていません。これからも社員の意欲を引き出し、将来的に経営を担える人材も育成していきたいと思っています。



資格取得などに意欲的に取り組む社員



会長に お聞きしました!

私の朝時間

午前中に特別な予定がなければ、起床は7時45分ごろ。早起きができないわけではありませんが、昔から夜型の生活をしてきたので、朝はゆっくりです。睡眠時間は8時間を目標に、しっかり確保しています。朝食に限ったことではありませんが、野菜をたっぷり食べるのが健康づくりの秘訣。20年前に血糖値が高いと指摘されたのを機に、千切りキャベツなどを食べて対策をしています。

好きな言葉

シンプルですが「頑張ろう」という言葉が好きです。仕事に全力投球することはもちろんですが、人間には遊びも必要。妻に予定を聞くと、私よりもスケジュールが詰まっています。社員にも「働くのは仮の姿」くらいのつもりで、定時退社、有給休暇取得をして、人生を楽しむべきと話しています。余暇も頑張ってみると、仕事にもプラスになることがたくさんあるはずですよ。

私のお気に入り

若い頃から多趣味です。まずは風景写真を撮影するのが好きで、特に紅葉や冬景色を撮影に行きます。夜中に蒜山や阿蘇などへ車を走らせて、朝の光を浴びた絶景を切り取ると、最高に気持ちがいいですね。機械の修理も大好きで、昔は真空管ラジオを直していました。ぜんまい仕掛けの振り時計も任せてください。日々の日課として楽しんでいるのは、ウォーキングです。3kmを40分かけて歩きます。「移動は車がメイン」「職場ではデスクワーク」という社員にも、歩くように勧めています。



取締役会長兼社長

井上 文弘

概要

- <所在地> 山口市佐山産業団地南1200-13(西部本社)
- <設立> 平成2年
- <資本金> 1億円
- <従業員数> 約90名
- <事業内容> システムコンサルティング、システム開発(設計、プログラム開発、保守)、ソフトパッケージ開発・販売、OA機器販売、データエントリ業務
- <拠点> 東京本社、関西支店、北陸支店、福岡支店

企業沿革

- 昭和47年 西日本ソフトウェア創業
- 平成2年 (株)西日本情報システムへ商号変更(資本金820万円)
- 平成13年 東京支店開設。東国システム株式会社を子会社化
- 平成15年 資本金1億円に増資
- 平成17年 北陸支店開設。東京支店を東京本社に改組
- 平成19年 福岡支店開設
- 平成23年 子会社としてV.S.Tソフトウェア設立
- 平成24年 関西支店開設